

英 語 科 授 業 案

日 時	平成 27 年 10 月 23 日 (金) 5 校時
生 徒	2 年 B 組 男子 16 名, 女子 16 名 計 32 名
授業場	2 年 B 組教室
授業者	造 田 あ か ね

1 単元名 *Sunshine English Course 2 Program6 A Work Experience Program*

2 単元について

(1) 単元観

IT 革命の進展などにより、経済などの様々な面でグローバル化が進む社会において、国際競争は激化し続けている。一方で地球環境問題をはじめ、異なる文化との共存や国際協力の必要性についても自明の理であろう。日本においては 2020 年の東京オリンピック・パラリンピックの決定を機に、文部科学省より「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」が出され、中学校段階では「身近な事柄を中心に、コミュニケーションを図ることができる能力を養う」ことが目標として提案され、より高い外国語能力が求められるようになった。これは文部科学省が平成 27 年 6 月に発表した生徒の英語力向上推進プランで、「平成 29 年度中に中学校卒業段階での英検 3 級程度以上を達成した中学生の割合 50%」という英語力に関する数値目標が設定されていることや、CAN-DO リストという形で「言語を用いて何ができるか」という観点から具体的な目標を設定するよう提言されていることから明らかである。

本単元 Program6 では to 不定詞を学習する。to 不定詞には名詞としての用法、形容詞としての用法、副詞としての用法があり、同じ to+動詞の原形という形であっても意味や使い方が大きく変わるため、生徒にとっては非常に理解しがたく、定着・活用できるようになるまでに時間がかかる場合が多い。しかし、to 不定詞を学習することで表現の幅は大きく広がることになる。好きなことややりたいこと、目的や用途などの生徒にとって身近な情報について、より自由に表現できるようになる文法事項である。

本単元の本文では職業体験が取り上げられており、教科書の登場人物の由紀、武史、桃子がそれぞれ保育所、スーパーマーケット、コンピューター工場での職業体験の様子や学んだことについて語っている場面である。本校においてはキャリア学習の一環として「職場体験」という名称で職業体験を実施していることから、生徒にとって親しみやすい題材であると同時に、新出文法事項の to 不定詞を使う必然性や利便性を味わわせやすい題材とも言える。そこで単元末にこれまでの学習を発展させて生徒が自身の職場体験の経験について表現する場を設けることで、to 不定詞を自己表現のツールとして活用できるという有用感を育みたい。併せて、本単元では「書くこと」の題材としてホストファミリーに送るメールの作成が提示されている。これを 3 年生宛てに書く職場体験報告書に添える手紙という設定にすることで単元につながりを持たせたい。

(2) 生徒観

省略

(3) 指導観

以上のことを踏まえ、次のような手立てを講じる。

①単元の中に既習事項を用いて、相手意識を高める課題を設定する **A**

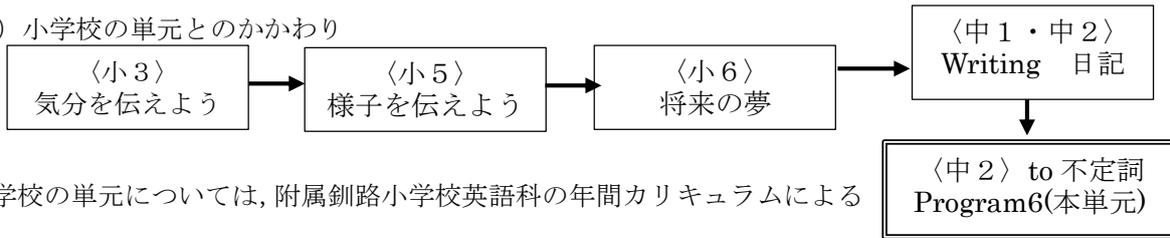
本単元では、本校の3年生に宛て職場体験の報告書を作成し、読んでもらうことを課題として設定する。昨年職場体験を行った3年生という存在を意識させることで、単に何をしたかという事実のみを羅列するのではなく、学んだことや感想など、多様な表現が求められるようになる。また、辞書に頼った英文では、3年生であっても理解してもらえない可能性を伝え、既習事項を活用する必然性を感じつつ自分の考えや気持ちを表現するだろうと考えた。

②既習事項を用いて自己の考えを表現するための見通しを記述させる **B** (研究変数)

英語で表現をする際、生徒が伝えたいことと実際に表現できることには大きなギャップがある。しかし、完全では無くても既習事項を用いれば、ある程度は表現することができる。これに気づかせ、既習事項を活用することができるよう、本時ではマインドマッピング(以下MM)を活用する。一度作成したMMを、既習事項を念頭にグルーピングし、自分の考えを表現するための見通しを持たせることで、伝えたいことを広げたり、より良い文脈になるよう内容をつなげられるようになると考えた。また、班やクラス全体で考えを交流し、練り合う協働の場を設けることで、既習事項が様々な角度から活用できることに気づき、自らの表現にも生かすことができるようになる考える。

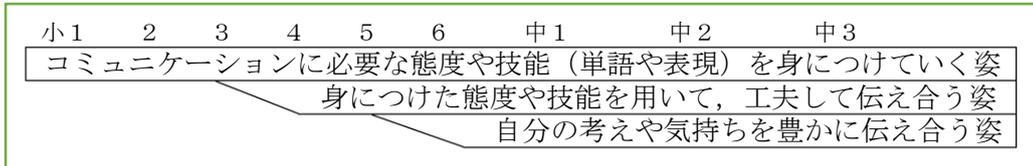
3 小中連携による研究とのかかわり

(1) 小学校の単元とのかかわり



※小学校の単元については、附属釧路小学校英語科の年間カリキュラムによる

(2) 小中9年間で英語科で育む「自ら学ぶ意味を創造できる児童・生徒」の姿



4 単元目標

to不定詞を用いた文の構造を理解し、to不定詞と既習事項を活用して自らの職場体験について読み手を意識した英文を書くことができる。

5 単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
ア 自分のやりたいことや行動の目的などについて積極的に聞いたり話したりしている。 イ 既習事項を積極的に活用して、職場体験の様子を詳しく伝えようとしている。	ア したいことや好きなこと、目的、物の用途について話することができる。 イ 職場体験でやったこと、学んだこと、感想などについてまとまりのある英文を書くことができる。	ア ALTへのインタビューを聞いて詳細を理解することができる。	ア to不定詞を用いた文の構造を理解している。 イ Eメールの書き方の決まりや慣用表現について知識がある。

6 単元計画

時	学習事項	主な学習活動・手立て	評価			
			関	表	理	知
1	職場体験についての報告書を書いて3年生に報告しよう A Program6 § 1	<ul style="list-style-type: none"> 自らの職場体験を振り返り、MMを作成する。 保育所での職業体験についての対話を読み、MMに活用する。 将来の夢について対話をする。 MMの中から、§ 1で学習したことを用いて表現できる部分をグルーピングする。 B 	ア	ア	ア	ア
2	・自分のしたいことや好きなことの言い方					
3	・to不定詞名詞的用法					
4	Program6 § 2	<ul style="list-style-type: none"> スーパーでの職業体験についての対話を読み、MMに活用する。 様々な行動の理由について聞き合う。 MMの中から、§ 2で学習したことを用いて表現できる部分をグルーピングする。 B 	ア	ア	ア	ア
5	・目的の言い方 ・to不定詞副詞的用法					
6	Program6 § 3	<ul style="list-style-type: none"> コンピューター工場での職業体験についてのスピーチ原稿を読み、MMに活用する。 使いみちを明らかにして身近な物や時間を説明する。 MMの中から、§ 3で学習したことを用いて表現できる部分をグルーピングする。 B 	ア	ア	ア	ア
7	・何をするためのものか説明する表現 ・to不定詞形容詞的用法					
8	POWER-UP Listening2	ALTへのインタビューを聞いて、概要から詳細へと理解を深め、わかった情報をもとにインタビューの役割演技をする。				ア

9 (本時) 10 11	Program6 のまとめ	・MM をグルーピングしたうえで報告書を書き、班で報告書の構成や表現を練り合う。 B ・報告書を作成し、推敲する。	イ	イ		
12	POWER-UP Writing 2	ホストファミリーへの E メールを読んでメールの構成や表現を学び、報告書に添付するメールを書く。		ア		イ

7 本時案

(1) 本時の目標

職場体験の報告書作成に必要な表現や文法について、to 不定詞や接続詞などの既習事項を活用しながら、班で状況や気持ちをより詳しく説明する報告書を練りあい、自らの報告書の構成を改善することができる。

(2) 本時の展開 (本時 9/12 時間) (○…発問, △…補助発問, □…指示, 説明)

主な学習活動 (下位目標)	教師の働きかけ・手立て	【評価方法】・備考
<p>1 報告書の構成を考えて発表することができる。</p> <p>・体験場所・体験内容 ・学んだこと・感想</p>	<p>○報告書にはどんなことを書けば良いでしょう。</p>	<p>【発表】</p>
<p>2 報告書の読み手を意識して報告書の内容や表現を工夫する必要性を発表することができる。</p> <p>・単調にならないよう、色々な文の形や表現を使う。 ・to 不定詞や接続詞を使うと1文で詳しく説明できる。</p>	<p>○ (主語が I ばかり, 「主語・動詞・目的語/補語」が連続する単調な例を示し,) この例文を読んでどのような感想を持ちましたか。</p> <p>○どのような工夫をすれば読み手の心を動かす報告書にすることができますか。</p>	<p>【発表】 教師が提示した悪い例を提示</p> <p>I went to a supermarket. I said Irasshai-mase. I stood at the door. I learned a lot of things. I was tired.</p>
<p>3 教科書の登場人物の職場体験に関するマッピングをもとに、報告文を書くことができる。</p>	<p>○教科書やワークシート等を読み返しながらか、このマッピングから報告文を書きましょう。</p> <p>①マッピングの中にランダムに書かれている語句の中から、1文にまとめられる語句を囲み、グルーピングする。 ②グルーピングしたものに番号を振り、文章構成を考える B ③構成に従って英文を書く</p>	<p>個【ワークシート】 マッピングを配付</p>
<p>4 班員の考えを聞きながらより良い報告書の内容や表現方法を考え、意見を言うことができる。</p>	<p>○班で読み手の心を動かす一つの報告書を作りましょう。</p> <p>□班で作成した報告書を発表しましょう。</p> <p>△より多くの情報を1文に入れることはできますか。</p>	<p>班【観察】</p> <p>全体【発表】</p>
<p>5 自分の報告書を作成するための構成をし直し、発表することができる。</p>	<p>□これまでに作成してきたマインドマッピングをグルーピングしましょう。</p> <p>□どのような構成になったか発表しましょう。</p>	<p>【ワークシート】</p> <p>・個 ・全体</p>

